

シダクロスズメバチとその寄生アブ

(シロスジベッコウハナアブ)

(写真は全て OLYMPUS Tough3 で撮影)

シダクロスズメバチの巣2カ所

北海道岩見沢市春日町にある我が家の庭周辺には毎年のように何かしらのハチが巣を作っている。今年はシダクロスズメバチが2カ所に巣を作った。物置の床下と家の基礎コンクリートと家との間の隙間からハチが巣に出入りしていた。

初夏の頃は出入りするハチの数はあまり多くはなかったが、秋になると結構な数のハチが出入りしていて、巣が少しずつ大きくなっていく様子が覗かれた。巣の出入り口から1メートルぐらいまでであれば、静かに近寄って何もしなければ少し警戒されるぐらいで襲ってくることはなかった。初冬になると出入りするハチの数は減ってきたが、日当たりが良く気温が5℃ぐらいまで下がっても活動していた。11月初旬でも巣への出入りが見られた。



物置の床下への出入り口
2021年10月4日撮影



基礎コンクリートと家との間の隙間
への出入り口
2021年10月4日撮影

10月に入ると家の壁や芝生の上でシダクロスズメバチがゆっくり動いている姿を見る機会が多くなった。写真を撮影して少し調べてみた。

働き蜂、女王蜂、雄蜂の写真(大きさ及び腹部の縞の本数が異なる)



働き蜂 腹部の縞は5本
2021年11月7日撮影



女王蜂 腹部の縞は5本
2021年11月9日撮影



雄蜂 腹部の縞は6本
2021年10月26日撮影



大きさ比較

触角の節の数の違い

どれも触角の2番目の節は短い、3番目の節は長い

働き蜂と女王蜂の触角は12節でできている、雄蜂の触角は13節でできている





雄蜂の触角 13節

クロスズメバチとシダクロスズメバチの顔による判定

シダクロスズメバチとクロスズメバチは姿や大きさが似ていてちょっと見ただけでは見分けが付きませんが、顔で判断することができます。昆虫図鑑「札幌の昆虫」に出ている判別方法を参考にして、2つの巣に出入りしているハチはシダクロスズメバチであると同定した。



左図は「札幌の昆虫」（木野田君公著 北海道大学出版会 2006 年発行）338 頁の一部分のコピー



働き蜂



女王蜂



雄蜂

シロスジベッコウハナアブがシダクロスズメバチの巣に侵入しようと試みている動画

10月初旬、庭の芝生で草取りをしていると、シダクロスズメバチの巣の回りで見慣れない姿のアブが行ったり来たりしていた。最近私は昆虫は原則としてカメラで写すだけにしているが、このアブに対してはうまく写すことができなかったので捕虫網で捕まえてプラスチックの容器に入れて写真を撮った。図鑑等で調べてみるとシロスジベッコウハナアブであることが分かった。

成虫は各種の花で吸蜜するが、幼虫はクロスズメバチ等の巣に寄生して、成虫の死体を食べたり幼虫を襲って食べたりするようである。「札幌の昆虫」209頁には雌雄の写真と「スズメバチの巣に寄生」と書かれている。



シロスジベッコウハナアブ
2021年10月3日撮影



上の写真のシロスジベッコウハナアブは複眼の間が離れているのでメスと思われる（オスの複眼はくっついている）。ハチの巣に侵入しようとしていることからもうなずける。

ネット上ではオスの写真は少ないようである。以下のところに綺麗なオスの写真があった。

<https://arisuabu.exblog.jp/20455180/>

また、以下のページは寄生アブ等について詳しく書いてあるので参考になった。

< 解説 > スズメバチの巣で見つかる昆虫

https://researchmap.jp/laccotrephes1874/misc/10690461/attachment_file.pdf

10月9日にたまたま巣を見に行くとこのアブが巣の周りにいたので動画を撮った。
巣に侵入しようと飛び回っている姿が写っている。シダクロスズメバチはこのアブが近くを飛び回っていても警戒したり追い払ったりする様子を見せなかった。



動画は2021年10月9日
撮影

[ここ](#)をクリックすると動画を再生します。